

## 東京都北区栄町の皆さんとの交流からの学び

教授 菊池義昭

秋学期の1年生の生活支援学演習(1年生ゼミ)では、東京都北区栄町の皆さんとの交流を通して、地域福祉などの現状を体験的に学ぶ学習を実施しております。1年生の時から、できるだけ実際の福祉現場を体験することが重要で、これが2年生、3年生での社会福祉施設等での実習などに結びつくプログラムになると考えるからです。特に、学生の多くが、同世代以外の多様な世代の人たちと向き合った経験が少なく、それらの人たちとの関係づくりは、実際に体験してみないと体得できないと考えたからです。

栄町は、東京都内にありながらも高齢化率が 28.6%と、身近な地域にも各種の福祉問題が存在することを発見し、どんな課題があるかを体験的に理解してもらいたいと考たからです。具体的には、まず事前学習として、町内会(自治会)の役割、地域包括支援センターの仕事内容、社会福祉協議会の活動内容を文献やインターネットで調査し、その後実際に栄町を訪問し、町内会の役員の方に案内していただ



きながら町内の現状を観察するフィールドワークを実施することになりました。第1回目は、10月19日に実施し、栄町内を歩き回り、その後王子5丁目団地の高齢者あんしんセンターで、地域包括支援センターの役割などを学びました。第2回目は台風の接近で中止になりました。



また、11月16日には、栄町の誕生会に参加し高齢者の皆様と親交を深めることができました。12月3日には、栄町の自治会長さんなどをお招きして、各ゼミの代表者が先のフィールドワーク等から学んだ内容を報告する北区栄町フィールドワーク発表会を実施しました。さらに、1月12日には、栄町新年ゆうぎ大会にも参加し、滝野川第五小学校の児童と大縄跳びやドッジボールを楽しみました。

1年生は、この1年間、高校受験から解放され、自由な大学生活の中で、いかに自分をコントロールしながら、学びを深めていくのかという課題に直面し、新しい自分を切り拓こうとしているようです。今後もこのエネルギーに期待しつつ、見守っていきたいと考えております。